

## ●【2012 現闘】12 項目の要求書を提出 — 基準日は 10 月 26 日に



市従は 10 日、市側に対し「2012 自治労現業統一闘争に関する要求書」を提出した。

自治労は、この間の取り組みの成果と総括のうえに立ち 2012 現業・公企統一闘争の基本的な目標を「職の確立と市民との連携による自治体の責任に基づいた質の高い公共サービスの確立」として推進をはかって

いくとともに基準日を 10 月 26 日に設定した。

市従は自治労の基本目標にもとづき個別具体 12 項目の要求について申し入れを行った。

市従は冒頭、大阪府市統合本部での議論課題と「市政改革プラン」の推進について「この間マスコミ報道が先行し、組合員は将来について不安に思っている」と強調、市側方針が決定してからでは交渉余地が無いと、経営形態および事務事業の見直しによる勤務・労働条件が変更となる場合は早急に交渉を行うよう求めるとともに、身分問題については本部—人事室間で協議し、支部—所属間で勤務労働条件課題について交渉を行うよう人事室に所属指導を求めた。

また、給与制度改革により組合員の給与水準が大幅に下がっていること、組合員の半数以上が最高号給に到達していることなどから、組合員のインセンティブやモチベーションの低下につながっていると指摘し「人事制度と給与制度は一体として取り扱うこととあわせ、技能労務職給料表 1 級から 2 級への昇格条件を改善するよう」強く求めた。

労働安全衛生対策については、職員の安全と健康管理を保持するためにも本部—人事室間との協議は必要不可欠だが、各所属においても労働安全衛生にかかわる課題について、支部と十分な協議を行うよう再度の指導を行っていただきたいと前置きしたうえで「労働安全衛生にかかわる課題は、日々の協議の積み重ねが災害ゼロに繋がるものであると認識している。十分な意思疎通をもった協議となるようお願いする」と強く要請した。

最後に「この間の予備交渉で、今後の交渉の進め方については事務折衝、小委員会交渉、団体交渉を行うことを確認してきた。ヤマ場にむけ事務レベルで積み上げをはかったうえで団体交渉を行うことから、市側として誠意ある対応を要請する」と述べた。

(写真 = 要求書を手渡す、上谷委員長㊟)

## ● 訂正とお詫び

10 月 5 日号の市従第 96 回定期大会来賓写真の神戸市従「左川書記長」は「左川委員長」の誤りでした。訂正しお詫び致します。

## ●【市従第96回定期大会】主な質問内容

大会では、運動方針案、当面の闘争方針案などに対し約18人の代議員から質問・意見が出された。質問内容の一部は次のとおり。

### <交渉の強化>

**Q.** 局との交渉では労働安全衛生の課題ですら、まともに行えず苦慮している状況。市側に交渉確保をあらためて指示して欲しい。

また、今後の労使交渉に対する本部見解を。

**A.** 2012 現業統一闘争で市側に対し、市民が安心して暮らすことのできる公共サービスを提供するよう求めるとともに、組合員の「働きがい・やりがい」がもてる職場体制を構築すべきであると迫りたい。

また、支部一所属間における労使関係づくりむけ、市側に交渉事項であることを明確にさせたい。



**Q.** いま、区長の予算決定権の拡大と財源の配分などがすでに検討されているなか、組合員の多くが在籍する事業局のあり方、各区にある事業所のあり方、要員課題、勤務労働条件等が変更するのではないか、あるいは交渉窓口が局なのか区なのか不明瞭になるのではと危惧する。交渉が確実にできる体制を精査し、確立する必要がある。

**A.** 各区に配属されている組合員および各事業所で働く組合員の交渉窓口が直近、所属から各区長へと移管されるということは当面考えにくいですが、将来的に「新たな区」移行が想定されるなか、区単位の組織体制も視野に入れながら組織強化の観点からも調査・分析・研究を行い、関係支部との連携を密にした検討・協議が必要だと考えている。組合員の勤務労働条件にかかわる内容である場合は、市側に対し十分な交渉を行っていききたい。

### <人事制度>

**Q.** 事務補助業務に従事する組合員は現業管理体制が確立しておらず、職務職階制度による昇格が適応されないため2級へ進むことができない。確立している業務についても主任昇格枠が非常に狭いため、多くの職員が昇格できないまま最高号給を迎えることが考えられる。また1職1級が崩れ、技能統括主任と部門監理主任が混在するなど、業務執行体制への影響と混乱が予想される。今後、2級以上に昇格できる制度の確立と、職務職責に応じた主任制度の再構築を求める。

**A.** 2012 現業統一闘争で市側に対し、制度の改善を求めている。例えば、一定の資格を取得したり研修の評価点数が貯まると1級から2級へ昇格するといった、大阪府が導入している制度を分析・検討を加えて大阪府で導入できないか、あるいは別の新たな制度として何らかの方向性を見い出せないかなど、考えていきたい。

## ＜組織強化＞

Q. この間の労働組合攻撃により、市従という大きな砦は組合員から見えなくなってきた。このままでは市従への信頼感・参画意識は薄れ、帰属意識も弱まり組織の弱体化につながっていく。今後どのように情報を発信し組織を強化していくのか、一連の攻撃とどのように対峙していくのか、組合離脱が予想されるなかで組合員のモチベーションを保つとりくみも必要だと考えるが。

A. 現在、組合費チェックオフ廃止にかかる各支部執行部を対象とした「市従運動の発展と安定した財政基盤の確立にむけて」と題した説明会を行っている（第1弾）。第2弾は各支部・分会・班役員、第3弾は全組合員を対象に実施していくが、とくに第3弾ではチェックオフ廃止によらず、市従としてのたたかうスタンス・今後の方向性も訴えていきたい。100%の結集をお願いするとともに、現場の生の声も聞かせていただきたい。

また、機関紙「たいまつ」の紙面充実、迅速な情報発信にも引き続き努めたい。先般の団体交渉では、中継をリアルタイムで動画配信するといった試みも行ってきたところであるが、各支部にも引き続き、どういった組強策があるか知恵もいただきたい。

さらに、この間、市従ファミリーイベントについては好評を得ているが、組合員・家族を対象とした取り組みなど、引き続き実施していきたい。

Q. 本部の活動が現場で見えていない。大衆運動など目に見える運動をして欲しい。組合員もたたかうので協力して欲しいと言って欲しい。

A. この間、組合員の生活と権利を守ることを最重要課題として運動を行ってきた。苦渋の判断もあったが、どちらが組合員にとって良いのかを考え判断してきた。オルグでは組合の必然性・必要性について誠心誠意、訴えていきたい。無駄な運動は無いが、もう少し選択と集中を精査して取り組みを行っていききたい。本部への叱咤激励として受け止める。

## ● 11月から全組合員説明会を実施 — 必ずご参加ください



市従は、急速に変化する四囲の状況を認識した運動展開と、その運動を支える財政基盤の強化が重要であるとの認識のもと、すでに9月から「市従運動の発展と安定した財政基盤の確立に向けて」と題した説明会をスタートさせているが、11月からは全組合員を対象に行っていくことが決まっている。

この説明会は「給与の一部控除に関する協定書」の改訂にかかる大きな制度変更の可能性もあること

ことから、全組合員に「ろうきん結集・同意書・振替依頼書」等に関して丁寧な説明を行うために実施するもの。

説明会は、市内の各区民ホールや会館などで11月から予定、今回は支部ごとではなく個々の都合のよいスケジュールに合わせ参加ができる。具体の日程は次号に掲載予定。

組合員の積極的なご参加を。

**(写真 = 第2弾での説明会のようす)**

## ●【市労連第 59 回定期大会】すべての議案を承認 — 上谷副委員長が委員長に就任



大阪市労働組合連合会（市労連）は10日、ヴィアール大阪で第59回定期大会を開き、賃金確定要求を含む当面の活動方針、2012年度予算など、すべての議案を承認した。

役員体制では新たに上谷高正・副執行委員長（市従委員長）が執行委員長に就任した。また、田中浩二・書記長（市職）、井村雅胤・書記次長（市従）は再任となった。

主催者あいさつに立った中村委員長は、橋下市長就任以降の大阪市を取り巻く状況、市労連はじめ各単組への不当労働行為とそのことに対する対策、職員基本条例による分限解雇をさせない取り組みなどにふれながら「分限解雇の発動など不測の事態に備え、さらなる市労連への結集をお願いする。真面目に働く者が報われる世の中をめざし運動を進めることを訴えたい」などと述べた。

大会ではすべての議案が承認され、当面する賃金確定闘争など市労連7単組組合員が一丸となってたたかう決意を固め合った。

就任あいさつで登壇した上谷・新委員長は「この間、橋下市長は『市民目線で組合を適正化する』と表明し、職員アンケートの強行、組合事務所使用不許可処分と団体交渉拒否、組合費チェックオフ廃止など、まさしく労働組合に対する支配介入・団結権侵害などの不当労働行為を繰り返している。このような状況のなか市労連としても今一度、原点に立ち返り、毅然とした対応をはかっていかなければならない。いずれにしても長期化・継続したたたかいになるだろうが、私たちの正当性を訴えること、そして、これらのたたかいに勝利することが今置かれている閉塞している状況を打開する第一歩につながると信じている。あつてはならないことだが、職員基本条例において分限免職に言及されるといった状況になった場合、市労連として大闘争を組むことが必要だと考えている。厳しい取り組みになるが、今後とも市労連へのいっそうの結集をお願いしたい」と述べた。

（写真 = たたかう決意を訴える、上谷新委員長）

## ●【府本部第 56 回定期大会】石子新体制が船出 — 都市交との組織統合を承認



自治労大阪府本部は6日、シティプラザ大阪で第56回定期大会を開き、府内から約300人の代議員が参加のもと、すべての議案を承認した。

役員体制では新たに石子雅章・執行委員長代行（大阪市従・前執行委員長）が執行委員長に就任し、石子新体制の船出となった。

また、高橋篤・書記長、市従出身の青野敬治・執行委員（本部）、西川徹二・執行委員（本部）、栗本

正則・執行委員（市民生活支部）、武田英作・執行委員（市民生活支部）は再任となった。

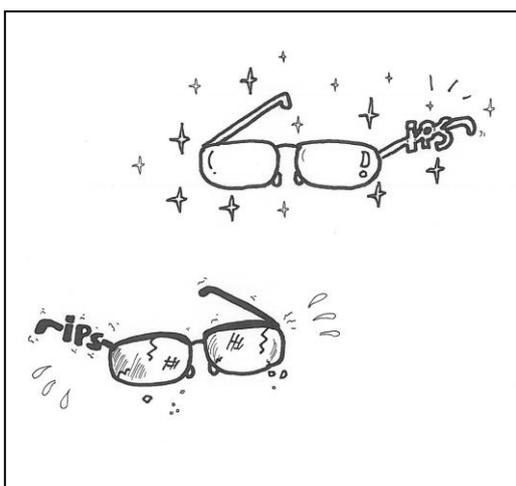
主催者あいさつに立った山下博司・執行委員長は「政治不信は、個々の政治家や政党への不信から議会制民主主義や政党政治そのものへの不信へと深刻化し、こうした民主的制度ものともに破壊してくれるヒーローの登場を待望するようになる。発言し行動する市民が一人ひとり増えていくなかで、私たち組織労働者はそうした市民との信頼関係を気づいていくことが大切だ。それがなければ、例え維新の会の人気が失速し、例え消滅したとしても、いつかまた同じことが繰り返される。民主主義を担うことこそが主催者である私たちの義務であり権利だ。『民主主義とは面倒なものだが、私たちは主催者であることから下りられない』と反貧困ネットワークの湯浅誠さんは近著で記している。私たちの課題の解決を具体的に進めていくためには地道な取り組みが必要だ」と述べた。

大会では、運動方針、当面の闘争方針、一般会計・特別会計予算、都市交との組織統合の取り組みについてなど、すべての議案が承認された。

**(写真 = あいさつする、石子新委員長)**

## ● 漫録伝

市従まんが集団 古谷 綱康



## ● あふた～ざか～にばる

みんなの「これって私だけ？」…本屋に立ち寄るとなぜかトイレに行きたくなる…テレビリモコンの先端や醤油の口を自分に向けられるのが嫌…カレーが大嫌い…仕事に行くときは必ず子どもと握手をしてから…芸人などテレビに出ている人などにファンがない…限定品や行列を見ると手にいれたいくなる…一年中パンツとシャツの格好で寝る…並んだレジが一番混む…ラーメンと焼き飯を食べるとき右手に箸、左手にスプーン…バスタオルは何回か使用してから洗濯…就寝前に必ずコーヒー…居酒屋でメニューを見るだけで酒が飲める…臭いオナラでも自分ののであれば許せる…汗がハンパない…（JOE）